

第26号  
令和5年10月発行  
2023.Oct.



# 剣脈



▲令和五年度玉竜旗高校剣道大会

公益社団法人

## 福岡県剣道連盟

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内  
TEL:092-712-1890 / FAX:092-712-1891



会長挨拶



公益社団法人 福岡県剣道連盟  
会長 青柳 俊彦

玉竜旗高校剣道大会を通して改めて考えること

令和二年度以降三年以上に及んだ新型コロナウイルス感染症による様々な制約もようやく解消され、経済活動・社会活動が正常化してまいりました。福岡県剣道連盟においても、各種事業を当初の事業計画通りに着実に実施を進めております。そうしたなかで、九州剣道連盟の主催事業である玉竜旗高校剣道大会について、昨年度の二年ぶりの再開を経て今年度も無事に開催することができました。参加校数は男子・女子それ

ぞれ四百七十四校・三百六十三校と、ともに昨年度より多くの学校に参加いただき、若い剣士たちの躍動に今後に向けた明るい希望を感じました。共催である西日本新聞社さまをはじめ、審判をお務めになられた先生方、運営を支えてくださった方々に深く感謝しております。

振り返りますと、剣道界では同感染症の拡大当初は、各種大会・講習会等の中止を余儀なくされましたが、全日本剣道連盟の発出したガイドライン等にとり、感染対策を適切に講じながら昇段審査会や大会等を再開してまいりました。同感染症の状況を踏まえつつ活動を正常化させてきたことは冒頭申し上げた通りですが、今回の玉竜旗大会を振り返りつつ考えることは、いわゆる「コロナ前」と同じに戻すことが必ずしも今後あるべき姿とは限らないのではないかと、ということですが、

具体例をあげましょう。「つば競り合い」の取扱いです。同感染症下における暫定的な試合審判法において不当なつば競り合いの防止のため、「つば競り合い、あるいは相手と接近した場合は、試

合者は積極的に技を出すか、積極的に解消するように努力しなればならない。」とされるようになりました。同感染症の拡大防止だけでなく、結果として時間の空費が抑止され構え合って攻め合う試合展開へ移行が進み、観戦において試合が断然面白くなりました。また「つば競り合い解消に至る時間は一呼吸(目安としておよそ三秒)」とされていますが、引き技はそのわずかな時間の中で繰り出すことが求められ、試合にスピード感と冴えを与えるようになったと今回の玉竜旗大会を観戦して改めて認識したところです。

同感染症は私たちの暮らしや諸活動に大きな制約を与えました。が、これまで当たり前と思っていたこと・変えられなかったことに変化を与えるきっかけになったともいえます。つば競り合いを例にお話しましたが、今後もより剣道が魅力的なものとなり普及・発展につながるよう、守るべきものは守りつつも、会員みなさんの意見もいただきながら、新たな時代に対応するものにしていきたいと考えております。

目次	
会長挨拶	一
脈動	二
連合地区剣道連盟通信	四
居合道通信	七
杖道通信	八
各域からのご報告	九
令和五年度玉竜旗高校剣道大会総評	十三
ご報告	十七
医科学安全委員会だより	十九
昇格・昇段/表彰のご報告/編集後記	二十



第五十二回福岡県武道祭

会期 令和五年四月九日(日)  
会場 福岡武道館

三年ぶりの開催となった第五十三回福岡県武道祭、新型コロナウイルス感染症防止を最優先に剣連として検討を重ね、いろいろな御意見を踏まえ次のような大会次第で実施することとなりました。

開催に関しては大きな混乱もなく、またその後の感染者を出すこともなく無事成功裏に終えることができました。

来年度開催については今年度を検証し、更に内容の充実した武道祭となるようにしたいと考えています。

武道祭開催について関係者各位に心より御礼申し上げます。

大会次第

一、開会式

- (1) 開会のことば
- (2) 国歌静聴
- (3) 大会会長挨拶
- (4) 試合上の注意「審判長」
- (5) 公開演武「日本剣道形」

二、各種演武

- (1) 各種の形  
※古武道・天道流薙刀演武
- (2) 杖道の部
- (3) 居合道の部  
※試斬り他
- (4) 異種試合  
※剣道対なぎなた五試合

三、剣道指導稽古

※全日本強化選手四人による稽古  
稽古護国少年剣道部、志煉会剣道倶楽部各四人

四、剣道特別立会

※剣道教士八段による特別立会

五、閉会式

- (1) 閉会のことば



コンプライアンスの徹底  
～全剣連の取組み～

令和五年四月  
公益財団法人 全日本剣道連盟

コンプライアンスの徹底  
～全剣連の取組み～

令和5年4月  
公益財団法人 全日本剣道連盟

ガバナンスとコンプライアンス

- ・ガバナンス
  - ・「統治・支配・管理」
  - ・適切な組織運営(スポーツ庁)
  - ・スポーツ団体(&公益法人)としての社会的責任を果たす方策
  - ➡組織の権限・責任、相互牽制関係の明確化、情報公開等による説明責任
- ・コンプライアンス
  - ・法令遵守(全剣連の規則・ルールも含む。)に加え、社会常識、良識
  - ・コンプライアンスを維持改善するための管理体制「ガバナンス」
  - ➡ガバナンスの強化が、コンプライアンスの強化に

スポーツ庁ガバナンスコードの制定  
全剣連は公益法人へ移行

- ・令和元年6月、スポーツ庁はスポーツ団体のガバナンスコード制定
- ・令和2年9月16日全剣連は一般財団法人から公益財団法人

共通して重要なこと

- ガバナンス(適正な組織運営)の強化
- コンプライアンス(法令遵守)徹底



## なぜコンプライアンスが重要か

- ・企業においては様々な事案が発生
    - 不正会計(粉飾)、偽装(産地、データ)、その他(個人情報流出等)
    - … 最悪の場合、倒産も
  - ・スポーツの場合、不祥事が起きると
    - 社会がそのスポーツを敬遠、人気下落
    - 競技者の誇りに傷、競技人口が減少
    - 資金面では、登録料等減収・企業スポンサー撤退等で、中央団体運営に影響
    - … 資金源を失うことで事業縮小等 負のスパイラル
    - 当該個人にとっては、築き上げた地位・名誉の喪失、民事責任(損害賠償)、(暴力などでは)刑事責任
- ➡ 全剣連は、決意をもって不祥事防止に取り組み

## (参考)スポーツ団体のガバナンスコード

令和元年6月、スポーツ庁は「スポーツ団体のガバナンスコード」制定

### 【ガバナンスコードにおける13の原則】

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 原則1: 基本計画の策定       | 原則8: 利益相反の適切な管理    |
| 原則2: 役員等の体制整備      | 原則9: 通報制度の構築       |
| 原則3: 組織運営に必要な規定整備  | 原則10: 懲罰制度の構築      |
| 原則4: コンプライアンス委員会設置 | 原則11: 選手・指導者との紛争解決 |
| 原則5: コンプライアンス教育    | 原則12: 危機管理・不祥事対応体制 |
| 原則6: 法務・会計等の体制整備   | 原則13: 地方組織等との関係    |
| 原則7: 情報開示          |                    |

- ➡ 毎年自己審査、公表
  - 4年に一度、日本スポーツ協会やJOCによる審査 (令和2年12月受審)

## 剣道人口の今後

- ・そもそも人口減少
    - (2021年現在 13歳108.9万人、6歳:100.3万人、0歳:83万人)
  - ・野球、サッカーなどに比べ大衆訴求力(テレビなど)は小さい
  - ・お金がかかる(稽古着・袴、竹刀、剣道具)
  - ・汗臭い
  - ・痛い
  - ・体罰のイメージにつながっていないか?
- ➡ 少なくとも暴力、体罰、その他ハラスメントを根絶する必要あり

## 剣道人口の減少

### ・高校剣道部員数(高体連資料より)

	卓球	弓道	剣道	柔道
2003年(平成15年)	87,062	65,162	69,382	35,628
2019年(令和元年)	76,328	62,278	48,435	17,904
増減	-10,734	-2,884	-20,947	-17,724
増減率	-12.2%	-4.4%	-30.2%	-49.7%

この間の16歳(高校1年生)人口:135万人(2003年) ➡ 112万人(2019年) 82.9%

- ・中体連:平成15年から令和元年 37%減(女子委員会資料より)
- ・道場連盟:平成元年12万人から平成30年5.4万人 半分以下(同上)
- ・初段登録者数:平成13年4.7万人 ➡ 平成30年3.2万人 △32%
- 同年13歳(中1)人口 (127万人) ➡ (107万人) △16%

## 今一度、考えよう

- ・剣道の理念
  - ・剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である
- ・剣道修練の心構え
  - ・剣道を正しく真剣に学び…
- ・剣道指導の心構え
  - ・(竹刀の本位)(礼法)(生涯剣道)
- ・全剣連倫理に関するガイドライン
- ・その他にも
  - ・やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。(山本五十六元帥海軍大将)

## なくならない不祥事

### (全剣連への告発、新聞報道等)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総件数	14件	15件	20件
実名告発等	8件	9件	17件

実名告発が急増 ➡ 深刻な事案が多くなっていないか

- バウハラ、高校生自死(高校)
- 教え子への暴力、逮捕・略式起訴・罰金(中学校)
- 教え子にわいせつ行為、逮捕・有罪・執行猶予(スポーツ少年団等)
- 不適切な会計処理、生徒・関係者から誕生日祝いを強制徴収他(高校)
- 部費着服、暴力、生徒に洗車を行わせる等不適切な行為(高校)

## 全剣連倫理に関するガイドライン(前文)

- ・剣道の理念
  - 「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」
- ・剣道修練の心構え
  - 旺盛なる気力を養い、礼節をとうとび、信義を重んじ誠を尽くして、
- ・理念に反する不祥事の発生
  - 居合道審査に関する金銭授受、暴力・体罰
- ➡ 改めて倫理意識を啓発する必要性 ~ ガイドラインの制定
- ・対象者
  - すべての剣道関係者、特に役員・指導者

## 全剣連の取組み

- ・倫理規定制定
- ・倫理委員会発足(倫理委員会規程)
- ・全剣連倫理に関するガイドラインの制定(平成30年11月、令和元年11月一部改定)
- ・相談・苦情窓口の設置(平成30年11月～令和4年3月)
  - 窓口への通報、報道、Jスポからの通知 3年で合計92件(一部重複)
- ・綱紀委員会規則(懲罰規則)の改定(平成30年、令和4年等)





### 全剣連倫理に関するガイドライン (反倫理的行為:暴力、ハラスメント②)

- ・【反倫理的行為に起因する事項・暴力行為】(続き)
  - ・2013年柔道女子代表選手  
「...によって行われた暴力行為やハラスメントにより、私たちは心身ともに深く傷つきました。人としての誇りをけがされたことに対し、ある者は涙し、ある者は涙れ果て...」
  - ・暴力は、身体のみならず、心を傷つけるもの
  - ・剣道の理念「人間形成の道」、剣道修練の心構え「礼節をととび」、剣道指導の心構え「相手の人格を尊重し(お互いを敬う心と形)」
- 剣道と暴力は、相容れないもの
- ・暴力の結果、個人には刑事責任(傷害・暴行)、民事責任(不法行為による損害賠償)、剣道界全体に多大な負の影響

### 全剣連倫理に関するガイドライン (反倫理的行為:暴力、ハラスメント①)

- ・【反倫理的行為に起因する事項・暴力行為】
- ・暴力・パワーハラスメントの絶対禁止
  - 相談・苦情窓口/報道等 平成30年11月以来112件うち、  
イラチ、暴力・体罰 32件、パワハラ・指導16件  
(役員による暴力3件、教師による体罰6件)
  - 暴力に対する考え方(間違い)
    - ✓剣道教師による体罰映像(ニュース)を見て、「稽古で分からないように殴れるのに」
    - ✓「あるとき気を抜いた練習生とかが殴られて、ボコボコに殴られた。」「殴る監督の目に涙があった。それを見たとき、私はこの監督について行く決心をした」
    - ✓体操女子暴力 ~ 本人も家族も納得していた
    - ✓殴るには殴る理由がある

### 全剣連倫理に関するガイドライン(その他)

- ・不適切な経理処理
  - 適正な経理処理と不正行為の防止
  - ボランティアだから多少のことは... 一切ダメ
- ・選手・役員選考
  - スポーツ仲裁機構で団体側の敗訴が意外と多い、その多くは規程や基準の不備
- ・安全・事故防止
  - 剣道は安全な武道、さらなる配慮
- ・一般社会人としての規範
  - 反社会的勢力には特に注意

### 全剣連倫理に関するガイドライン (反倫理的行為:その他)

- ・セクシャル・ハラスメント
  - 「相手が不快に感じたら、セクシャルハラスメントである」
- ・差別の禁止
  - ・合理的理由のない一切の差別を禁止
- ・アンチドーピング及び薬物乱用
  - ドーピングに関する知識を深めること 全剣連HP参照
  - 大麻等薬物使用は違法であることをさらに徹底
- ・指導的立場にある者と選手等との関係
  - 相手の立場の尊重と、立場を自覚した責任ある行動
- ・審査に関する金銭授受の禁止その他
  - ・審査は厳正、公正、適切、誠実に

### ガイドラインに対する違反行為があった場合

- ・全剣連綱紀委員会規則(いわゆる懲罰規程)
  - 不祥事発生の場合)
    - ✓都道府県剣連による調査・処分の申立て → 綱紀委員会による審査 → 答申・処分
    - ✓(又は)諮問予備審査会(全剣連)による調査等 → 同上
  - 処分内容
    - ✓称号・段位(全剣連のみ) : 剥奪、一定期間の停止等
    - ✓会員資格(全剣連・都道府県剣連) : 除名、一定期間の停止
- ・都道府県剣連に、懲罰規程整備を依頼

令和五年六月末、日本スポーツ協会から自宅に「第十八回日本スポーツ

スポーツグランプリ賞  
受賞で思うこと



福岡県高齢剣友会  
会長  
大音 善照

◆福岡連合地区筑紫剣道連盟

### 連合地区 剣道連盟通信

グランプリ受賞の決定」の通知を突然受けビックリ仰天、県内の剣道関係者はこれまで宮崎克己先生・江藤栄子先生に続き二人目の受賞とのこと。

日本スポーツ協会では「長年にわたりスポーツを実践し、広く国民に感動や勇気を与え、生涯スポーツ社会の象徴となる顕著な功績を揚げた方に授与する」とあります。

私自身果たしてそのような条件に適合する資格があるのだろうかと思われ、過去を振り返ってみますと、高校時代に団体一回、警察官になって団体一回、個人一回、高齢者大会で団体一回の全国大会での優勝がありますが、個人試合での優勝は一回だけで、他は団体試合で責任を果たした位です。

現在は地域剣道連盟の会員として微力を尽くしているに過ぎず、人生百年と言われる中で、残された人生を有意義に頑張っていきたいと思っております。

これから先の自己管理としては、六十歳頃から現在まで毎朝起きてすぐ敷布団の上で自分なりのストレッチ体操を行い、栄養、休養、読書、人材に恵まれ、定期的な稽古を無理をせざる行ない、これまでもまだ入院や大きな怪我もせず、日常生活を送ることができたことも受賞の大きな土台になっていたのではないかと考えております。

剣友の皆様も自分なりの健康保持



や稽古の仕方を持つておられ、調子の良い時、悪い時もあります。自分が一人で悩んだり、解決できない問題が生じた時は、自分を支えてくれる人に相談し、良い智慧を伝えてもらうことも大切だと思っております。今後とも剣友の皆様方の更なるご活躍とご多幸を祈念して、受賞の謝意と報告をここにさせていただきます。



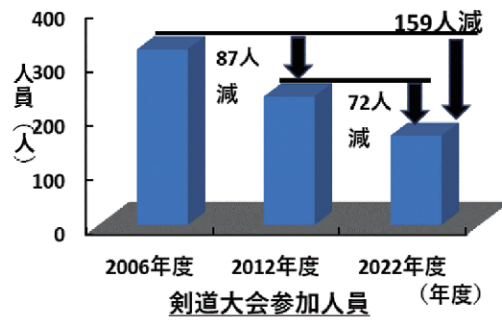
◆北九州連合地区行橋京都剣道連盟  
行橋京都剣道連盟  
会長  
末光善次郎

会長就任挨拶と今後の展開

コロナウイルス感染症が五類に変更され規制も緩和されましたが、まだまだ従来の環境で活動を行うことのできない状況です。

さて、五月二十日に開催された行橋京都剣道連盟総会において会長に選任され重責を負うこととなりました。組織をまとめ指揮するのは得意ではありませんが、合わせて改選された優秀な理事会メンバーと共に一致協力して、剣道の理念・行橋京都剣道連盟規約第三条(目的)を念頭に置き円滑な運営と更なる発展に力を尽

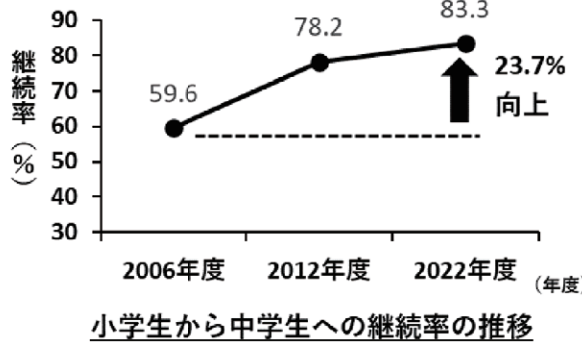
くしたいと思っております。当連盟は、行橋市・京都郡(一市・一郡)で編成されています。都市部への人口集中と少子高齢化に伴い当連盟の一部では、小学校の統廃合等が行われています。そこで、このような状況下での連盟の状況を調査してみました。



まず、連盟が主催する大会参加人員を(小学生・中学生のみ)を調査すると、二〇〇六年から二〇二二年までの十六年間で百五十九人も減少していることが分かりました。

また、道場別の小学生人員では十人以下のところが四道場あることも分かりました。このように、小学生の参加者の減少ははつきりしています。この傾向が続けば、将来連盟を支える人員が不足し活動が厳しくなると推測されます。

しかし、小学校から中学校に進学後の剣道継続率の調査では、二〇〇六年度と二〇二二年度を比較すると二十三・七%向上しており、この状況を参考に判断すると、男女を問わず小学生から高齢者まで活動できる環境、すなわち生涯剣道ができる環境づくりを目指し、推進して行くことが大切だと考えられます。



その方策として、

① 小学生から一般まで参加できる例會実施

② 少人数の道場対象に、やりがい、達成感を感じさせる仕掛け作り

③ 中高齢者が参加できる稽古場の確保

④ 女性が参加しやすい環境づくり(理事一人↓三人に変更)

⑤ 若中年層の参加できる稽古場の確保

等が上げられます。以上のことを行い、活気ある連盟を目指していきたいと思っております。今回の原稿依頼を受け連盟活動を振り返る良い機会となりました。今後とも諸先生方のご支援・ご指導を宜しくお願いいたします。



◆筑後連合地区みやま市剣道連盟  
みやま市剣道連盟  
理事長  
池末 宗

みやま市剣道連盟活動状況

みやま市剣道連盟は平成十九年の町村合併により、旧山門三池剣道連盟が現在のみやま市剣道連盟となり、十六年を経過して現在百十三名の会員で活動しております。

令和二年二月頃よりコロナ感染症の





発生で、戸惑いましたが、会員のみ  
なさんの熱意と協力のもと、乗り越  
えることが出来ましたのでその状況を  
報告いたします。

会員の日々の稽古は、市内三ヶ所  
有志が集って稽古を実施しております  
が、コロナ発症後は感染症防止ガイド  
ラインに沿って稽古を続けました。

そのような状況下でありながら、  
会員の昇段者(四段以上)は、四段三  
名・五段四名・六段二名・七段二名  
ですが、七段に女性一名が昇段され  
ており敬服するばかりです。

会員の多くが小学生、中学生の指導  
育成で多くの成果を上げておられます。

因みに小・中学生の剣道習練者の  
減少は、校区の統廃合とも相まって、  
剣道普及の課題となっております。

当市剣道連盟主管の大会で、コロナ  
禍以降再開した大会は、J Aみなみ筑  
後旗争奪少年剣道大会(令和四年十  
月開催。小学生五十五・中学生二十  
九チーム)が三年ぶり、みやま旗争奪  
九州選抜少年剣道大会(令和五年三月  
開催。九州一円小学・中学強豪チー  
ムを選抜招待、各三十一チーム)で四年  
ぶりの開催で、コロナ感染症対策と大  
会内容を一部縮小して実施しました。

今年四年ぶりの再開となる矢部川  
東西対抗剣道大会は、東軍みやま市  
剣道連盟、西軍柳川市剣道連盟とす  
る対抗戦であり、柳川市剣道連盟主  
管で八月二十七日に開かれました。

この大会は第六十七回という長い歴  
史をもち、小学生から中学生・高校生・  
二十歳代以下から六十歳代までの計四  
十一将の布陣で、対勝負であり、矢  
部川東西の地域剣道愛好者の一大大  
会となっております。

なお、アメリカ・シアトル向学館と  
の剣道文化交流を、来年訪問を予定  
しています。

以上のようにコロナ禍の三年を乗り  
切った感はありませんが、今後はより  
真剣に剣道の本分を離れずしっかりと  
努力していきたいと思えます。



◆筑豊連合地区 嘉飯剣道連盟



嘉飯剣道連盟  
理事長  
合屋 秀夫

コロナ禍における  
嘉飯剣道連盟の活動状況

一、二〇二〇年(令和二年)一月に  
国内でコロナウイルス感染者が確認さ  
れてから三年数ヶ月を経て感染者の  
減少傾向がみられ国の要請では本年  
三月からのコロナウイルス感染対策の  
対応も平時の体制に移行し、それぞ  
れの人判断し対応する自主的な対  
策に移行するに至っている。

現在行っている嘉飯剣道連盟の稽  
古では、基本的なコロナウイルス感染  
予防対策として、道場入り口で体温  
測定、手指の消毒、道場床のアルコー  
ルモップかけ除菌等を行い、稽古中  
は窓を開放し換気を行う等、引き  
続き感染対策を行っております。面  
マスク面シールドの着装については政  
府から令和五年三月十三日以降「個  
人の判断に委ねることとした」こと  
に伴い、全剣連においても以前出され  
ていた「対人稽古に関する感染予防  
ガイドライン」に関わらず面マスクの  
着用は個人の判断に委ねることとし  
たとの方針が示されたが参加者は今

なお面マスク、面シールドを着け稽古  
を行っております。

二、嘉飯剣道連盟の定例稽古

主な稽古会は、若菜定例会(会員  
約六十名)でこれは平成二年嘉穂郡  
穂波町立若菜小学校(現在飯塚市立  
若菜小学校)移転建替えに伴い残さ  
れた体育館を剣友の故石坂氏が町に  
交渉して剣道愛好者の剣道場として  
の稽古会が発足したのが起りです。

旧体育館使用の若菜会当時は、  
直方市の故安永幸生先生、八幡西  
区から神民也先生が稽古に来ていた  
だいております。

当時が懐かしく思い出されます。  
現在は元小学校敷地内に飯塚総  
合福祉センターが開設され多目的  
ホールを剣道場として毎月使用願  
いを提出し毎週土、日曜日に剣友が  
稽古を行っております。

稽古会は共に午前中で午前九時  
から十時までを剣道形、十時から  
十二時三十分まで地稽古を行って  
おります。

剣道の原点である形の稽古におい  
ては、打太刀仕太刀の関係役割を理  
解し打突の一瞬の理合、足の引付け  
を充分にして気剣体一致に心を込め  
互いに研鑽し励んでおります。

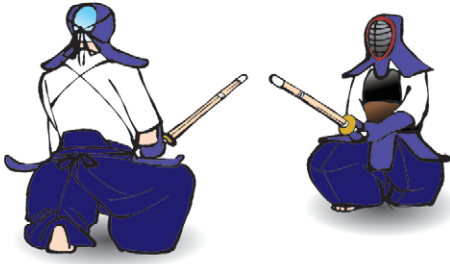
地稽古においても交剣知愛の精神  
で毎回約三十名の剣友が上位の先生  
に数多く稽古をお願いし自己を磨き  
日々稽古に精進しております。



特に昇段審査が近くなり、筑豊地区はもとより、福岡、北九州地区等、地区外の先生方も稽古に来ていただき、更に熱気をおび活気がみられました。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で、遠来の先生方の姿が少ないものの稽古会の成果は、稽古を重ね昇段される剣友も数多く見られ、稽古に優るものはないと思っております。

又筑豊地区の年間行事であります筑豊三地区対抗剣道大会もコロナ禍ではチーム編成十九名の出場をチーム十三名に縮小し行った経緯もあります。

これからの課題は少年剣道の普及振興と剣道愛好家の先生方も高齢化しており、三十代、四十代の剣友が数多く参加されることを期待するところでもあります。



## 居合道通信



居合道部長  
國方 孝之

## 居合道部活動報告

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、令和五年五月から「五類感染症」に移行となり居合道部行事も順調に進み、先ずはこれまでに行われました行事内容及び居合道部の活動についてご報告致します。

四月の武道祭は従来とは違う内容となり、居合道の部では小中学生集団演武、生涯武道実践者の教士七段で七十〜九十歳代の演武、試し斬り、過去の全日本居合道大会の優勝者を含む出場経験者の演武、全日本居合道大会出場選手三名の演武、教士八段・範士八段演武の構成内容にて行いました。

今後も武道祭での居合道の構成内容はまた色々検討しながら居合道の魅力を発信していきたいと思っております。

五月には、京都での全剣連居合道

八段審査会にて馬場清治先生が居合道八段にご昇段されました。

福岡県の居合道がより一層盛り上がることを期待し、引き続き居合道八段が誕生することを祈念する次第です。

六月、八月に行われました居合道講習会、七月の福岡県居合道大会等では多くの会員の参加があり熱気を取り戻しており、県大会では白熱した試合が展開されました。

ここ最近では女性の会員増加もあり福岡県居合道大会では女性の活躍が多く見られました。

県大会結果は別表をご参照ください。

地域稽古会は福岡県を三ブロックに分けて開催しておりますが、参加人数も多く会員各位の「上手くなりたい」のサポートも居合道部強化・研修委員のもと展開しており活性化につながっております。

また、コロナ禍で一時中止しておりました初心者体験教室も再開し、居合道部企画・広報委員の精力的な活動もあり本年度は八名の応募者がありました。八名全員がその後も継続しており今後が楽しみです。初心者体験教室も参加者のご意見を聞きながらより参加しやすい、居合道に興味を持っていたように引き続き行い会員拡大

に努めたいと思います。また会員拡大の一環としましても講習会時に高段者に対して指導法・審判法の強化も検討し行っていきたいと思っております。

以上、居合道部の活動報告とさせていただきます。



第56回福岡県居合道大会 試合風景



## 第五十六回 福岡県居合道大会結果

- 少年の部 1位：横田路史（北九州居合道同好会） 2位：姫野偉伊（八女地区居合道同好会）  
3位：安藤麻紘（早良居合道同好会）
- 少年の部・敢闘賞：渡邊世統（飯塚居合道同好会）、山下悠月（武揚館道場）
- 無段の部 1位：小山和洋（北九州居合道同好会） 2位：上谷満咲樹（糸島錬心館道場）  
3位：青木香寿恵（早良居合道同好会）、慎祐平（粕屋居合道同好会）
- 初段の部 1位：小副川舞子（宗像居合道同好会） 2位：立石慶太（早良居合道同好会）  
3位：大石恭久（早良居合道同好会）、渡邊煌（飯塚居合道同好会）
- 二段の部 1位：内田早紀子（北九州居合道同好会） 2位：姫野悦伊（八女地区居合道同好会）  
3位：森英子（北九州居合道同好会）、武藤民雄（早良居合道同好会）
- 三段の部 1位：今田圭一郎（北九州居合道同好会） 2位：江崎幸太郎（武揚館道場）  
3位：山中俊二（尚武会）、木原修（宗像居合道同好会）
- 四段の部 1位：松田武尊（北九州居合道同好会） 2位：渡邊弘美（久留米博錬会）  
3位：原田絵理（飯塚居合道同好会）、坂元博美（千代剣友会）
- 五段の部 1位：上月芳樹（重信流滴水塾） 2位：安本誠一（千代剣友会）  
3位：森田明美（若松居合道同好会）、古賀重治（明德館）
- 六段の部 1位：井手烈太郎（糸島錬心館道場） 2位：金城和枝（倫武会）  
3位：久保育子（尚武会）、佐伯伊勢雄（福岡武道館居合道部）
- 七段の部 最優秀演武賞：横田靖子（北九州居合道同好会）
- 団体戦 1位：福岡藩（正修館・筑紫剣・若松同連合） 2位：粕屋居合道同好会  
3位：今が旬（錬心館・倫武会連合）、百花繚乱 - 筑紫野（北九州居合道同好会）

### 杖道通信



杖道部  
副会長  
福田 博文

#### 杖道部から報告事項

先日開催された今年度の県大会についてご報告いたします。

第四十二回福岡県杖道大会が七月二十三日（日）福岡武道館で開催されました。

参加人数は一二八名と少なめではありませんでしたが、福岡県内だけでなく長崎・鹿児島・山口県、そしてフランスからも参加いただき、白熱した大会となりました。

開会式では、今年五月に八段に昇段された馬場清治先生に見事な居合道演武を披露していただきました。続いて杖道部員による神道流剣術・中和流短剣術・杖道の演武が行われました。

試合は、少年の部から六段の部までの個人戦。そして先鋒、中堅、大将の三名一チームによる団体戦が行われ、いずれも熱戦が繰り広げられ

ました。

今回フランスから参加されたフレデリック氏は富永範士に師事。毎年七月に来日し一ヶ月程滞在、富永範士の下で稽古されています。

此度はサミー、レイラ、オリビエ氏の三人も同行し、県の講習会、龍門神社月例祭、そして久留米の私の道場にも来られ熱心に稽古されました。

県大会ではレイラさんが無段の部で優勝、サミーさんが三段の部で優勝、そしてオリビエさんが六段の部で三位入賞。団体戦では「ボンジュール・パリ」が優勝という好成績を収められました。海外の杖友達の快挙に多くの参加者は大いに刺激を受けたはず。海外の杖道修行者は日本人以上に武の精神を求め礼節を重んじ、熱心に真摯に稽古に励んでおられます。言葉は通じずとも彼らの姿に感銘を受け、杖道を通して交流を深めた参加者の皆さんは、あらためて武道の素晴らしさを感じられた大会になったことと確信しています。

オープン参加で、年齢・性別を問わず杖道部会員が皆で作りに上げる県大会は、杖道部活動の中でも重要な行事です。杖道の普及発展のためにも来年はより多くの参加を切に願います。皆様には会員拡大のための活動にも引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。

第四十二回  
福岡県杖道大会結果

- |       |              |            |             |
|-------|--------------|------------|-------------|
| ○少年の部 | 優勝：平川 響      | 2位：林田侑太    | 3位：森山一輝     |
| ○無段の部 | 優勝：レイラマダニ    | 2位：曾 暁     | 3位：東翔太郎     |
| ○初段の部 | 優勝：松本武徳      | 2位：越智温子    | 3位：芳賀幸子     |
| ○二段の部 | 優勝：櫛尾拓也      | 2位：中村光利    | 3位：井代 空     |
| ○三段の部 | 優勝：サミーエルシェウイ | 2位：今田圭一郎   | 3位：川崎啓太     |
| ○四段の部 | 優勝：井上有紀子     | 2位：宮路武久    | 3位：江川哲也     |
| ○五段の部 | 優勝：金子良太      | 2位：上村リカ    | 3位：花田實      |
| ○六段の部 | 優勝：坂本博美      | 2位：渡邊弘美    | 3位：オリビエバイヤル |
| ○団体の部 | 優勝：ボンジュールパリ  | 2位：明德館*尚武館 | 3位：千代剣友会A   |

現在、福岡県警特練員にありましては、各種大会に向けて訓練に励んでいるところであります。  
本年四月に開催された国体予選会男子の部においては、「先鋒」水田、「次鋒」國友、望月、「副将」武吉、本多の以上五名が強化選手に。女子の部

**福岡県警察剣道特練の活動報告**



福岡県警察  
剣道首席師範  
彌永 政美

各域からのご報告



第42回福岡県杖道大会

は、「先鋒」妹尾、村田、「大将」宮本の三名が強化選手となり、本年十月に開催される鹿児島国体に向けて強化訓練を実施しております。また、六月四日に開催された全日本女子剣道選手権予選会では、優勝妹尾、準優勝村田という結果で九月三日の本戦出場が決定。続いて六月二十五日に開催された全日本選手権予選会では、優勝國友、三位中山（警察学校初任科生）という結果で、十一月三日の本戦出場を決めております。  
七月六日開催の九州管区大会団体戦では、昨年二位の雪辱を晴らすべく、優勝を目標に稽古に励み本戦に臨みましたが、四県による予選リーグ（八県を二リーグに分ける）においてまさかの三位という結果でした。内容は三県が二勝一敗の三つ巴となりましたが、一勝差で予選リーグ敗退となりました。リーグ戦の怖さ、一勝の重さを痛感させられた大会となりました。  
女子個人戦にありましては、妹尾（警察学校初任科生）が六名による予選リーグから本来の力を発揮し、全勝で決勝トーナメント進出。準決勝、決勝は圧倒的な試合内容で勝利し、初優勝を成し遂げました。  
昨年から行われている第十九回世界剣道選手権大会に向けた候補選手強化合宿ですが、本年六月（女

福岡県チャンピオンの座と全国大会、九州大会への出場権をかけた、令和五年度福岡県総合体育大会第六十六回福岡県中学校剣道大会が七月二十九日（土）・三十日（日）の二日

**令和五年度第六十六回福岡県中学校剣道大会を終えて**



福岡県中学校体育連盟  
剣道専門部長  
大森 靖雄

子）、七月（男子）の強化合宿において、男子が二十二名から十五名、女子が二十三名から十六名に絞られました。その中に男子は國友、女子は村田、妹尾が残留となり、現在も強化合宿等に参加しているところでもあります。最終的には正選手十名に絞られるわけですが、是非ともこの三名が正選手として、来年七月に開催の世界選手権イタリア大会に出場し、世界の大舞台で活躍してもらいたいと切に願っております。  
最後になりますが、今後も部内外各種大会が控えております。指導者及び選手一同、万全の体調管理に努めながら一枚岩となり、日々精進していく所存であります。



間、筑後市の筑後広域公園体育館にて開催されました。

本年五月八日に新型コロナウイルス感染症が「五類感染症」に移行され、様々な規制が緩和されました。

本大会も、全剣連の「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」および「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」にもとづいて行うものの、館内への入場規制を撤廃するなど、今までの規制を一部緩和した形で実施しました。

昨年度の閑散とした会場とは違い、多くの観衆を迎えての大会となりました。

選手を見守る多くの観衆のあたたかい応援の拍手の中で、各地区大会を勝ち抜いた精鋭たちは、闘志あふれる熱戦を繰り広げました。見るものに感動を与え、全ての人の記憶に残る素晴らしい大会となりました。



## 大会結果

### ◇男子団体の部◇

- 優勝：古賀中学校 (筑前地区)
- 準優勝：飯塚日新館中学校 (筑豊地区)
- 第三位：三宅中学校 (福岡地区)
- 玄洋中学校 (福岡地区)



男子団体戦  
準優勝 飯塚日新館中学校



男子団体戦  
優勝 古賀中学校



男子団体戦  
第三位 玄洋中学校



男子団体戦  
第三位 三宅中学校



### ◇女子団体の部◇

- 優勝：筑紫野南中学校 (筑前地区)
- 準優勝：老司中学校 (福岡地区)
- 第三位：古賀中学校 (筑前地区)
- 野間中学校 (福岡地区)



女子団体戦  
準優勝 老司中学校



女子団体戦  
優勝 筑紫野南中学校





女子団体戦  
第三位 野間中学校



女子団体戦  
第三位 古賀中学校



女子個人戦  
入賞者

◇女子個人の部◇  
優勝…木原愛由花 (中村学園女子)  
準優勝…永井 陽咲 (宇美中)  
第三位…檜崎 文華 (福吉中)  
上田 明歩 (老司中)



男子個人戦  
入賞者

◇男子個人の部◇  
優勝…久保田堅二郎 (八女学院)  
準優勝…矢野 昊雅 (須恵中)  
第三位…北原 遙人 (古賀中)  
寄田 勇飛 (洞北中)

各域からのご報告



福岡県高等学校体育連盟  
剣道専門委員長  
畑江 秀彦

活動報告

様々な制約を余儀なくされた生活から、やっと日常を取り戻し、新たな生活様式が浸透してきたように思われます。そのような中、高体連の令和五年のこれまでを振り返ってみますと、本年も昨年同様に多くの大会で活躍を見せてくれました。

高体連剣道専門部において、本年度は男子が六番目、女子が四番目に多い結果となりました。上位ではあるものの、ここ数年の本県高体連の各大会の状況を見てみますと、部員数減少により県大会やブロック大会に、五人揃わない学校や廃部した学校が増えてきており、大きな課題であるといえます。これは本県だけの問題ではなく、全国高体連剣道専門部においても、これまで認めていなかった二人、四人での全国大会出場を認めるようになるなど、剣道人口の減少は全国的な課題であると言えます。本県においても、登録者数が昨年度と比較して、男子が約六十人、女子が約二十人減少しています。

令和元年と比較すると男子が百四十人、女子は六十人減少しており、年ごとに徐々に減少している状況です。現代社会においては、様々なスポーツに触れる機会や見聞きする機会が増えており、子供たちの選択の幅が広がっていることも人口の減少の一因と言えます。

そのような中、高体連においては剣道から離れる生徒を減らすことへの取り組みがひとつの課題であると考えております。

競技力については、春の全国選抜大会で福大大濠が優勝、中村学園女子が準優勝と、男女ともに好成績ではじまりました。インターハイにおいても、個人戦で男女ともに優勝者を出し、男子団体戦でも福岡第一が準優勝と、福岡県の競技力の高さと充実度を感じさせる大会となりました。福岡県剣道連盟主催の「ICTによる一貫指導育成システム構築事業」や県教育委員会主催の「スポーツ充実強化事業」など、様々な強化事業の成果であると考えられます。







# 令和五年度玉竜旗 高校剣道大会総評



審判長  
範士 田島 誠

## 玉竜旗高校剣道大会 審判長を終えて

歴史と伝統ある玉竜旗高校剣道大会が、昨年度より二年ぶりに復活して、令和五年度第九十四回玉竜旗高校剣道大会が、福岡市総合体育館照葉積水ハウスアリーナにおいて、七月二十五日から二十九日まで女子三百六十三校、男子四百七十四校の参加を経て、盛大に開催されました。

まず始めに、この度福岡県剣道連盟よりご依頼をいただき、二十四日の審判・監督会議から二十九日まで審判長として従事させていただきました。大会は、大した怪我・事故もなく、審判長としての役割を無事終了することが出来ました。これもひとえに、本大会役員の方、青柳大会会長、宮川・牧瀬副会長、尾末委員長の方のご指導・ご尽力によるものであり、この紙面をお借りし、厚くお礼申し上げます。また、副審判長として女子は井手副審判長、男子は彌永副審判長の力強いサポートをいただき、

試合審判全般において助言を賜り、安心して試合運営が出来ました。

何よりもご慰労申し上げたいのは、コロナ感染症が未だ終息しない中、また熱中症が心配される酷暑の中、早朝より審判打合せから始まり、女子は二日間、男子は三日間のハードな審判の労をおとりいただいた審判員の先生方には、心より感謝申し上げます。大会の全日程において、ほぼスケジュール通り大会が運営できましたことは、審判員の先生方の適切な審判員としての任務の遂行があったからこそだと改めて厚くお礼申し上げます。

大会を振り返りますと、女子は二日目に四回戦以上が行われ、上位八校に九州以外から、青森東奥義塾、東京日体大桜花、茨城守谷、兵庫明石高校が勝ち残りました。その中で、優勝候補の島原を破った力強い剣道の東奥義塾、地元連覇を狙う中村学園女子が明石を、また日体大桜花を破った実力校の熊本菊池女子、近年全国の実力校に台頭してきた大分明豊が全国屈指の守谷を破り、ベスト四に名乗りを上げました。

準決勝は、明豊の副将小中原が菊池女子の名大将稲田に面、面の二本勝ちを納め明豊が二年連続決勝へコマを進めました。また、中村女子学園と東奥義塾の試合は、終始中村学園女子が試合の主導権を握り安定した戦いぶりで決勝進出を果たしました。東奥義塾の大将島村の健闘も讃えたいと思います。

# 令和五年度玉竜旗高校剣道大会総評

決勝戦は奇しくも昨年同様、明豊対中村学園女子の対戦となり、選手の入場には今年から戻ってきた大観衆から両校の選手に対して、温かい声援の拍手があり、大会を盛り上げていただきました。

試合は先鋒、次鋒と両校譲らず、引き分けと試合が動かず、中堅戦で中村学園の橋本が、二本勝ちし、続く副将の小中原にも引き分けて試合の流れを作りました。しかし、明豊大将後藤はさすがに、副将香野に二本勝ちし、流れを呼び戻し、いよいよ決着は大将同士にもつれ込みました。両者譲らない息詰まる攻防が続く、試合は延長戦にもつれ込みました。延長も三回目の直後、中村の門田の攻め動きが早く、後藤の手元が上がったところを見逃さず小手を決め、



玉竜旗六連覇と共に十度目の玉竜旗最長の大記録を樹立した瞬間でもありました。

決勝戦にふさわしいお互いに出し切った両校選手に対して、会場から、惜しみない拍手が鳴りやまず感動の中に、女子の大会は、幕を閉じました。

男子の試合は二十七日から始まり、大会二日目にはシード校である全国選抜大会三位の四天王寺東高校をはじめ、七校が姿を消しました。最終日、ベスト六十四校が出そろい上位に進出、その中で上位十六校に勝ち上がったのは、九州以外は富山龍谷、兵庫育英、岐阜済美、の三校だけという少しさびしい結果となりました。また、ベスト八校は



全て九州勢というゆるぎない九州剣道王国の強さを証明した結果となり、いよいよ見ごたえのある準々決勝が始まりました。



九州学院対島原、福岡大大濠対高千穂、佐賀対決となった三養基対龍谷、長崎南山対福岡第一、どこが優勝してもおかしくない接戦となり、ベスト四には、九州学院、福岡大大濠、優勝を狙う長崎南山、三養基が勝ち名乗りを上げました。この準決勝にもドラマがあり、九州学院、伝統校大濠戦は一步も譲らず大将戦、どちらが勝ってもおかしくない見ごたえのある戦いとなりました。

また、長崎南山に敗れはしたものの、北原選手を擁する三養基の十六年ぶり



のベスト四進出は、特筆した活躍ぶりだったと思います。

いよいよ第九十四回玉竜旗大会の優勝はこの二校に絞られ、決勝戦は両校の実力が伯仲する素晴らしい試合となりました。先鋒同士が引き分けた後、九州学院の次鋒大平が試合の主導権を握り二人抜き、そうはさせまいと南山の副将水口が奮起し、大平中堅の佐藤を抜き返し、副将森に引き分け、試合を振り出しに戻しました。

勝負は、大将同士石田対戸田、九州学院の二連覇、そして通算歴代最多の通算十一回目の優勝を決めた南山の戸田への一本の面は、攻め合いから小手、面、面と大技をつないで玉竜旗大会に相応しい連続技であったと思います。大観衆が

固唾をのんで決まった大技は、誰の目にも焼きついたことだろうと思います。観客からの鳴りやまない拍手が感動と選手へのねぎらいとして最後の決勝戦を物語っていたように感じました。私自身も試合終了の正面への礼を終えて審判長席を降りるとき、感動と感謝の気持ちで一杯になりました。

大会の総評として、西日本新聞に九州剣道連盟の副会長の牧瀬先生の素晴らしい男子総評のコメントが掲載されていますのでご紹介させていただきます。

「九州学院は、何度もタイトルをとった経験を生かして落ち着いた試合運びを見せた。重圧を感じない、一本取られても、動じず、ここぞというチャンスを見逃さない。待ちながら攻め、攻めながら待つというまさに【懸待一致】五人は鉄壁という感じだった。

今大会は、試合内容が非常に良かった。全日本剣道連盟のコロナ禍の試合審判法により、無駄なつば競り合いが減り、剣道本来の正々堂々とした試合が増えた。今大会は、四年ぶりに観客数の制限なしで行われた。コロナ禍の前に、戻ったことは本当に喜ばしい」とお言葉をいただきました。

今回審判長という大役をおおせつかり、自分なりに大会までに「玉竜旗における、コロナ感染症が終息するまでの暫定的な試合審判法」をどういうふうに解釈し、徹底し試合の活性化と高校剣道を良くすることが出来るだろうか、高校剣

道に貢献できるだろうかと考えてみました。その中で、大会は、選手、監督、審判が一致協力してこそ大会はよくなる、と、再確認いたしました。そして今回観客の応援、激励が如何に大きいか、試合と一つになり大会を盛り上げていただいたことは玉竜旗の持つ大きな要素であると感じています。試合審判については、福岡県剣道連盟の玉竜旗に向けての事前の講習会まで開催され、私自身事前にしっかりと勉強させていただいたことも報告させていただきます。

今まさに、甲子園において第百五回全国高校野球選手権大会が行われています。高校野球には新しいドラマが生まれ、見る者に感動を与えてくれます。その高校野球もあたらしい時代があった価値観の多様化が叫ばれ、様変わりしているのも事実です。

歴史と伝統のある高校剣道界の甲子園ともいえるにふさわしい、この玉竜旗大会も間もなく一世紀を迎えようとしています。新しい時代に向けて、人材育成や、グローバル化する新しい時代の剣道界に無くてはならないこの玉竜旗大会が、将来に向けてますます魅力ある大会になりますことを心よりご祈念申し上げます。

最後になりましたが、福岡県剣道連盟の皆様、大会補助役員として従事していただいた福岡県高校剣道部の生徒の皆様、厚く御礼申し上げます。





玉竜旗大会  
五人抜き達成感想



自由ヶ丘高等学校  
二年 甲斐 悠真

私にとって玉竜旗は、幼い頃からの憧れの大会でした。昨年、初めて出場した玉竜旗は初戦敗退という悔しい結果となり、今年は絶対に最終日まで残り、上位進出を目指すという一年間一生懸命稽古に励みました。

一回戦、帝京長岡高校(新潟県)戦では、監督から教わった攻めの剣道を心掛け、得意の面で五人抜きを達成しました。四回戦の沼田高校(広島県)は強豪校でしたがチームが勝つことを考え、一回戦以上に攻めを徹底し試合を行うようにした結果、二度目の五人抜きを達成することができました。

監督や先輩方、仲間から「ありがとう」という言葉やたくさんの方から「すごいね」という言葉をいただき、先輩方の最後の大会でチームの勝利に貢献でき、嬉しい気持ちで一杯でした。このような経験ができたのも、ご指導下さった先生方や先輩方、支えてくれた仲間や保護者のおかげであり、本当に感謝の気持ちしかありません。今後も日々の積み重ねを大事にして、来年は今年のベスト三十二を超えるベスト十六以上を目標に掲げ稽古に励みます。



八女学院高等学校  
二年 高巢 裕大

三年生の先輩方にとって最後の大会である玉竜旗。昨年の結果ベスト十六を越えることを目標に、チーム一丸となりがんばってきました。だからこそ、試合前の緊張は大きなものでした。私は先鋒として、一本を取れる技や、チームの流れなどを意識して今まで練習してきました。しかし、初めての舞台である玉竜旗で、最初はその成果を十分に発揮できませんでした。試合が進むにつれ、一緒に励んできたチームメイトの存在、そしてたくさんの方の応援を感じ、そのおかげで自分らしい剣道ができるようになりました。自分の持っている力や今までの努力、仲間や先生の支えなどのすべてがあつたからこそ、私は五人抜きができたと思います。

来年度の玉竜旗では、二年連続ベスト十六の結果を越えられるよう、現在、主将としてみんなをまとめ、練習に励んでいます。



久留米商業高等学校  
二年 野田 竜平

私は今回の玉竜旗で、思い切った剣道をしようという心を決めていました。しかし、試合をする前はとても緊張していました。とても不安な気持ちがありました。そんなときに次鋒の江上キャプテ

令和五年度玉竜旗高校剣道大会総評

ンが「あとのことは気にせず楽しんでこい」という言葉をかけてくださったおかげで、いつもの自分らしい剣道をすることができました。

中堅ぐらいからきつくなつたのですが、日頃の地稽古や試合稽古で最後まで集中力を切らさないことを意識して稽古してきたおかげで、最後まで諦めずに試合することができました。また、大会の前に部員全員が個人で目標を立て、私は「猪突猛進」という言葉に思いついていくという意図があり、この言葉通り剣道をすることができました。

五人抜きできたのは、試合のあとにアドバイスをくださった先生方や先輩方、これまで苦しい時も支えてくれた父、母のおかげだと思います。このことを忘れず来年度の大会に向けてチーム一丸となつて頑張っていきたいと思っています。



福岡常葉高等学校  
一年 白井 仁

先日、令和五年度高校剣道玉竜旗大会が開催された。自分が小学生の頃から従兄弟の応援に行っていた大会なので、その場に自分もやっと立つことができると期待と不安でいっぱいでした。

従兄弟の藤島兄弟が十人抜き十五人抜きを達成したり、母も福岡南女子高時代に十人抜きを達成しているの、皆んなの自分への期待が日に日に重くのしかかる日もありました。一回戦の反省をもとに、二回戦では「よし！抜い

てやろう」という強気一心で攻めました。その結果、終わってみると五人抜きを達成することができて本当に良かったです。母の記録には追いつけなかったけど、僕にはあと二回出れるチャンスがあるので、次は十人抜きに挑戦できるように、また一からしっかりと稽古を積み重ねて、絶対的な強い選手になれるよう頑張ります。



南筑高等学校  
三年 須山 香輝

南筑高校には伝統的な早朝の高良山登りがあります。週に三回、標高三百十二メートルの山を走って上り、途中には百三十一段の階段を往復し、足腰を鍛えました。

私は強化部活動のスポーツキャリアコースに在籍しています。体育演習という授業の中で部活動ができる時間が設けられています。その後さらに、放課後の稽古にも励みました。このように、より剣道に向き合える環境の中で高校生を送ることができました。これまでの二年半はとてハードな毎日でした。しかしそのおかげで、精神的にも体力的にも鍛えられ、剣道を通して人間的にも大きく成長できたと感じています。今まで家族や友人、先生方やOBの先輩方など本当にたくさんの方々の支えのおかげで、頑張ることができました。その恩返しをしようと思ひ五人抜きを狙って戦いました。五人抜きという目標が達成できたことは大きな自信にも繋がりました。一番思い出深い大会となりました。





東福岡高等学校  
二年  
松野祐太郎

この玉竜旗が三年生の先輩方にとって最後の大会で、また、自分のデビュー戦ということもあり、大変な緊張感を持っていました。試合前に儀武監督から「次鋒には回さないという気持ちと自分の良いところを全て出せるよう強気でいきなさい」とご指導をいただきました。試合では観覧席から応援してくれている仲間の分まで強い気持ちを持って挑みました。目の前の相手に一戦一戦全力で戦った結果、五人抜きを達成することができました。



東海大学付属  
福岡高等学校  
三年  
山口 裕人

まずはこのような形で恩返しができたととても嬉しいです。これからは、邦彦先生や保護者、先生方など沢山の支えてくださった人により多くの恩返しができるように頑張ります。



西南学院高等学校  
二年  
小柳隆太郎

五人抜きをする前、私は今まで体験したことのない緊張を体験していた。なぜなら、先鋒と次鋒が抜かれ、相手の先鋒と中堅である自分が対戦することになったからである。そして、私は思った。「どうしよう」と。

そのとき、不意に先輩が「大丈夫、自信を持って」と言っていて背中を叩いてくれた。これにより、自分の緊張が少し緩んでいくように感じた。遂に自分の出番が回ってきた。なんと緊張がほぐれ、いつも以上の動きをすることができ、五人抜きを達成することができた。

試合が終わった後、私は喜びに満ちていた。またこの試合を通じて、自分を応援し支えてくれる仲間の大切さを知った。この五人抜きはこの仲間がいなければ達成できていなかっただろう。そして、部活は仲間の大切さに気づくための重要な場所であると気づかされた。



福岡大学附属  
大濠高等学校  
三年  
永井 晴

私達大濠高校は高校生活最後の大会となった玉竜旗大会に挑む上でチームで約束していたことがある。それは、絶対に大将の関を出さないということだ。関の力を借りず、三年生の力で優勝するんだと一致団結して今大会に挑んだ。

わたしは先鋒として出場し、チャンスをつかんだ。これまで選手としてチームに貢献することができず悔しい思いもしたが、今回いたったチャンスを活かし、チームに貢献するんだという想いで一戦一戦後悔のないよう積極的に竹刀を振った。初戦からかなり緊張したが、後ろに控える頼もしい仲間の力と、試合前の森監督からの言葉が心の支えとなったから初戦を勝ち切ることができ、その後も試合数を重ねる度に状態を上げていくことができた。

準決勝まで勝ち進み九州学院と対戦することとなったが、今大会一番大きな山場になると感じ、同時にここを乗り越えたいときは優勝に大きく近づくと考えた。しかし結果は大将戦の延長の末、一本を決められ三位という結果に終わった。

今大会、目標としていた優勝には届かなかったが、共に戦った仲間、一番近くで支えてくださった先生方、遠くからでも応援し、支えてくださった保護者、OBの方々は心から感謝している。今大会を通じて、沢山の支えをいただいたお陰様で大きな経験を得ることができた。この経験を活かしてさらに精進して恩返ししていこうと思っている。



福岡雙葉高等学校  
三年  
片嶋菜々子

「いいものを見せてくれてありがとう」五人抜きを果した直後、保護者の方や、先輩が涙ぐみながら声をかけて下さいました。今まで支えて下さった全ての先生方、先輩、後輩、そして仲間たちへの感謝の気持ち。そして、結果が出なくて落ち込んでいた時に私を鼓舞し、欠かさず練習試合の応援に駆けつけてくれた母への溢れんばかりの思いが込み上げ、ここまで頑張れて本当に良かったと強く感じました。去年、その前年にコロナ禍で高校最後の試合をすることが出来なかった姉の分まで頑張っていたと意気込んで出場した玉竜旗で相手校に五人抜きをされました。先鋒としてチームに良い流れをつくろうとしたのに、会場の雰囲気や相手の動きに飲まれ、後ろに控える先輩の力に全くなけなかつた自分が本当に悔しかったです。それから一年、顧問の森山先生と仲間達と共に、如何に日頃の限られた時間での稽古を大切に出来るかを意識しながらそれぞれが自分との戦いの日々を続けてきました。

迎えた福岡雙葉剣道部として出られる最後の玉竜旗の日、自分の全力を出してこいという先生方の言葉を胸に、平常心を保ち自分の今まで積み上げてきたものを全て出そうと心に決めて試合場に向かいました。試合が進む中、常に自分自身を想像して全力で応援していました。相手先鋒が自チームの中堅に相手を二本綺麗に決めた時、去年のことが頭によみがえり、負ける自分を想像しそ





うになりました。しかし、続いて出た副将の負けてたまるもんかとでもいいかげな必死な声を聞き、私はいつの日か聴いた「剣道は意地の張り合いだ」という言葉を思い出しました。思えば、剣道と向き合っている中高六年間、稽古の中であら本が苦しくて出せなかったことも、毎日の稽古から逃げたくなかったこともあり、しかし、誰よりも必死に稽古をやり、コロナ禍でも一日も欠かさず素振りや走りこみをしてきた自分は、技術は誰にも負けないというプライドがあり、自分の戦っている最中のことは正直、よく覚えていません。ただ、妙に冷静で、今まで監督にももらった教えにただただ忠実に剣を振るえたように感じます。剣道が私に与えてくれた学びは計り知れません。剣道に出会えて本当に良かったです。



中村学園女子高等学校  
二年 萩原 永亜

私は、今回先鋒として試合に出させていただきました。チームに勢いをつけるため、後ろの仲間を信じて一勝でも多く、リードした状態で後ろに回すという気持ちで試合に臨みました。初戦の先鋒戦は引き技を上手く利用し一本を取ることができました。次鋒戦から副将戦は、相手の防御を足を使って崩し、切り込むことが出来ました。大将戦は相手の出端を狙い、一本にすることが出来ました。二、三試合目以降は、五人抜きという

自分の中での目標を達成することは出来ませんでした。が、リードした状態で後ろにつなぐことができて、今後の自分の自信にも繋がったと思います。選手としてはありませんでしたが、決勝戦の舞台も経験することが出来ました。来年こそは選手として決勝の舞台でチームの勝ちを決める一本を取ることができるよう、今後も精進していきます。また、来年七連覇に挑むことが出来るのも自分達だけなので挑戦者の気持ちで稽古に励んでいきたいと思っています。



小倉高等学校  
三年 竹村 天

コロナ禍での中学最終学年を経て、ようやく！という喜びでスタートした高校剣道。この二年間で新しい仲間と出会い互いに切磋琢磨し、そして先生方からは自ら考える剣道を御指導いただいた。それでも試合で勝つことは容易ではなく、なかなか成果が出ない日々を送ってきた。そのようななか迎えた高校剣道最後の夏、玉竜旗だった。

試合中、一本を取らなければならぬ場面でも不思議と焦りはなく、自然体で自分の剣道ができるように感じた。大切にしたのは、強い攻めと出端の意識。試合を重ね、体力的に辛くなってきた際は、拍手や声援が力となり、再び気力が高まることを体感した。対大将戦で、狙いを出端に絞ってチャンスをつかんだ瞬間は、これまでの修練の結実を実感。同時に、先生方、仲間、家

族、剣道を通じて関わって下さった皆さんへの感謝の気持ちが溢れた。これからも、その時々のできる形で長く剣道を続けて行きたいと思う。



福翔高等学校  
三年 高木 結愛

小学校二年生から剣道をはじめ、高校生の夢の舞台である玉竜旗で五人抜きを達成することができて、とても嬉しく思っています。このような結果を残すことができて、今まで指導してくださった先生方、日々稽古を共にした仲間には大変感謝しています。今後も剣道を通じて学んだことを生かし、感謝の気持ちを忘れず、新たな目標に向かって頑張っていきたいです。



福翔高等学校  
三年 具島 心愛

私は高校三年間なかなか試合に出ることができず悔しい思いをしてきました。しかし、最後の大会の玉竜旗で先鋒を任せられ、五人抜きをすることができ自分にも自信がついて三年間あきらめずに続けてきてよかったと思うことができました。これからも剣道を続けていきたいです。

ご報告



監督 蓮尾 孝幸

第七十一回全日本都道府県  
対抗剣道大会準優勝報告

本年四月二十九日、エディオンアリーナ大阪において全日本都道府県対抗剣道優勝大会が盛大に開催され、関慶太郎(大濠高校)、池田虎ノ介(筑波大学)、西村龍太郎(九州電力)、小森敏也(教員)、牧島凜太郎(警察官)、林田浩志(刑務官)、大淵量(教員)の七名が福岡県代表選手として出場いたしました。

福岡県は昨年、一昨年と二年連続で三位入賞を果たしており、今年には二十五年振りの優勝旗奪還を目指して、二ヶ月前から毎週土曜日午前中に団体強化選手との合同強化稽古を行いました。稽古では心技体の強化を図るため、前半に切り返し、打ち込み、掛かり稽古を徹底して行い、後半に互角



稽古と八段の強化委員元立ちによる指導稽古を行いました。選手達はこの厳しい稽古に積極的に参加し、同じ目標に向かって切磋琢磨していくことで、日増しに絆が深まり、チーム福岡としての団結力が高まっていきました。

そして迎えた大会当日、二回戦は青森県を破って勢いに乗る岐阜県と対戦し三対二で競り勝つと、続く三回戦も山口県に三対一で勝利しました。四回戦は強豪の広島県と対戦、勝者数一対一の数となり総本数の僅差で接戦を制しました。準決勝では優勝候補の一角東京都と互角に渡り合い、大将の大淵選手が上段を相手に見事な小手技を決めて一本勝ち、勝者数二対二となり総本数差で逆転勝ちしました。

いよいよ大舞台の決勝戦、十四年振りの優勝を狙う地元大阪府との対戦は、お互いに一步も譲らぬ攻防で先鋒、次鋒戦を引き分けた後、悔しくも勢いに勝る大阪に三連勝を許し、副将戦では林田選手(優秀選手賞)が一矢を報いるも四対一で敗れました。しかし、選手全員が一枚岩となって福岡県のために死力を尽くし、正々堂々

と戦い抜く姿は見る者に感動を与えました。

選手決定から二ヶ月間、大会に向けて全力で稽古に取り組んでいた選手の皆様には心より感謝申し上げます。

最後に、今大会の出場にあたりご高配とご支援をいただいた青柳会長をはじめ福岡県剣道連盟の役員の皆様、強化委員の諸先生方、そして応援をしていただいた皆様方、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。準優勝のご報告とさせていただきます。



### 第六十一回剣道中堅剣士講習会を終えて



筑豊連合地区剣道連盟  
嘉飯剣道連盟  
西田 浩孝

奈良県のルート奈良武道場にて、令和五年六月九日から三日間の行程で各都道府県の代表者四十六名(不参加の県あり)の参加にて講習会が開催されました。初日の真砂副会長の「中堅剣士に期待するもの」と題した講話の中で「全剣連で最も力を入れている講習会」と言われた言葉がとても印象的で、三日間の講習会が終わった後、そのお言葉通りだったと実感したのを覚えています。

講習に於いては、初日に行われた「指導法」にて「今までやって来た事は全て忘れてゼロから取り組む事」から始まり、所作、姿勢、握り、構え、素振り、切り返し、打ち込みと初心に戻り、今まで何度も意識して取り組み理解してきたはずでしたが体現するのが難しく、稽古の本数が増える毎に、体力や筋力の持続が難しくなり

無駄の無い動作と呼吸法が出来ていないことに改めて気付かされ基本の大切さと日頃の自身の稽古への取り組みを見直す機会となりました。講習の締めは先生方の元立ちによる稽古にて一日を終えます。

二日目、私は第三班々長でしたので全体の号令係りをさせていただきました。午前中は、日本剣道形、午後は木刀による剣道基本稽古法を受け、刀法の所作や理合、目付け、呼吸、打太刀と仕太刀の関係性や機の捉え方などレベルの高い指導をいただき「剣道の稽古と形の稽古は両輪の如く」とのお話が心に響きました。

三日目の最終日は「審判法」の講義にて「良い審判は、試合を良くし、試合が良くなれば剣道が良くなる」との話が印象に残っており、審判として「公正無私」の心構えや「その一本が試合者の人生に影響する事がある」など審判員の取り組みを改めて考えさせられました。最後は、お互いが試合者と審判員とに分かれ試合形式で立ち合いを行い全ての行程を終了いたしました。

この貴重な三日間を経験して、





これから自身の剣道人生に対する考え方や稽古の取り組み方に大きな影響になったことは言うまでもなく、地域の指導者として青少年の育成や審判などを積極的に行って参ります。

結びになりますが、ご講義を頂いた全日本剣道連盟の先生方と機会を与えていただいた福岡県剣道連盟の先生方に感謝申し上げます。本講習会の報告といたします。

## 医科学安全委員会 だより



医科学安全委員会  
福重 哲志

### 剣道難聴について

二〇二一年に会員の皆様にお願ひした剣道に関する障害のアンケート調査では四十四%の会員の皆様が難聴ありと回答しておられます。難聴は剣道愛好者によくみられる障害です。難聴はうつや認知症の原因になると言われています。

今回はこの剣道難聴についてお話しします。

**剣道難聴の原因**：剣道難聴の原因には二つのことがあります。一つは竹刀を打ち合わせたり、面を打ったりするときの大きな音、大声による発声など騒音により内耳の神経が障害されること、もう一つは頭部への竹刀打撃の衝撃が骨を伝わって直接内耳の神経を障害することです。

**剣道難聴の症状**：難聴、耳鳴り、耳が詰まったような感じ(耳閉感)が徐々に起こったり急に起こったりします。難聴は音の高さで二千ヘルツと四千ヘルツあたりの音が聞こえにくくなる特徴があります。特に二千ヘルツの音は会話で使われる音の高さであり人の話が聞き取りにくくなるという特徴があります。

**剣道難聴の診断**：難聴は自分では気づきにくい症状です。テレビの音が大きい、相手に聞き返すことが増えた、家族から難聴を指摘されたなどで気づかれることが多いです。これらのことがあった場合には耳鼻咽喉科を受診してください。子供たちが耳が詰まった感じがする、キーンとする耳鳴りをするなどを訴えた場合には耳への障害の始まっていることを示しています。

**剣道難聴の治療**：進行した剣道難聴は残念ながら治すことはできません。

耳鳴りや耳閉感などが始まった場合には少なくとも二週間程度は稽古を休むことが大切です。それでも治らない場合には耳鼻科を受診してください。子供たちを指導されている先生方は特に注意をお願いします。

重症化した剣道難聴を治すことは困難で補聴器による治療が主体となります。このためまず補聴器相談医の資格をもつ耳鼻科医を受診するようにしてください。診察の後補聴器が必要と診断された場合には紹介状をもって認定補聴器専門店で購入することになります。認定補聴器専門店には認定補聴器技能者と言う補聴器の専門家がいますので購入の相談をして補聴器の種類等を決めることが大切です。補聴器購入後は補聴器を自分の聴力の状態に合ったものに育てる必要があります。補聴器技能者と共に使用開始直後は一〜二週に一度、最低三回、その後は三〜六か月に一回は調整を行います。補聴器を自分ひとりの判断で購入したり、購入しっぱなしではいけません。

**剣道難聴の予防**：稽古以外の上には静かな環境で過ごすことも大切です。面紐を強く締めすぎないこと、面の衝撃吸収パッドや騒音防止用の耳栓の使用がある程度剣道難聴

の予防に効果的ではないかと言われています。むやみに面への衝撃を与えることは避けなければいけません。切り返しを竹刀ではなく面を受けさせるなどは決して行ってはいけません。



(社)伝統保存継承学会  
尚道学院 研究員  
中野麻衣子

### メンタルトレーニングとしての マインドフルネス

私は、今年三月に九州大学大学院人間環境学府の健康・スポーツコースの修士課程を修了しました。研究論文のテーマは「剣道昇段審査に向けたマインドフルネス瞑想法の有効性の検討」でした。目的は、競技力向上のためのメンタルトレーニングのとして有効性について、剣道の昇段審査を控えた方を対象にマインドフルネス瞑想法を取り入れていただき、効果を量的・質的に示すことと、剣道の昇段審査へ向けての心理的サポートとして効果的なアプローチ方法の提案を行うことでした。本記事では、会員のみなさんに少しでもお役に立ちたいという





思いで、マインドフルネスの概念と介入技法の一部を紹介させていただきます。

マインドフルネスという言葉を見聞きしたことはありませんか？マインドフルネスと言うと、ヨガの瞑想を思い浮かべる方が大半ではないでしょうか。マインドフルネスとは、「意図的に、その瞬間に、判断をせずに注意を向けること」という心理特性と、それを高める介入技法を指す概念です(Kabat-Zinn, 1994, 訳:田中ら, 2012, 杉浦, 2008)。

日本マインドフルネス学会では「今、この瞬間の体験に意図的に意識を向け、評価せずに、とらわれないう状態で、ただ観ること」と定義しています。なお、「観る」とは、見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる、さらにそれらによって生じる心の動きをも観る、という意味となります。

マインドフルネスの手段である瞑想を中核とした介入技法は、心理的・医学的治療効果をもつことが確認されています。また、ストレスや苦痛に対する対処方法の一つとしても考えられており、ストレスや慢性疼痛に対する療法として開発されたマインドフルネスストレス低減法(Kabat-Zinn, 1990, 訳:春木, 1993/2000)

を始めとし、うつ病に対する療法として開発されたマインドフルネス認知療法(Segal, et al, 2011; 1994)などもあります。また、アスリートを対象に、マインドフルネスとアクセプタンスに基づいた介入の研究を概観した研究では、パフォーマンス向上への効果が示されています(Gardner, et al, 2012)。

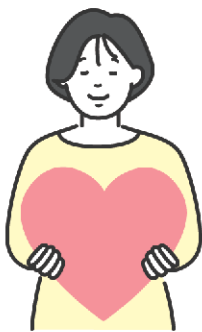
研究で取り入れたマインドフルネスの技法は、カバット・ジンによって開発されたマインドフルネス瞑想法をベースとしており、八週間のトレーニングを実施しました。具体的には、集合型の練習を八セッション実施し、加えて個人練習を可能な限り毎日実施していただきました。本記事では、マインドフルネス瞑想法の一部である、ボディ・スキャンと静座瞑想法を簡潔にご紹介させていただきます。

まず、おおむけになり、床やベッドの上でも、完全に目覚めている状態で行うことが重要になります。体の各部分(脚の指先、踵、脹脛、膝、大腿部、尻、背中、腹、胸、顔面など)に順次に注意を集中して、その部分の感覚を感じてみるという作業です。身体感覚を豊かにし、リラクセスするためのものです。

## ② 静座瞑想

何もしない一定の時間を作らなければならぬため、静座瞑想は姿勢が大事です。リラクセスした状態で保ち、①椅子に座る姿勢、②あぐら、③クッションを敷いてあぐら、このような状態で座ったら、呼吸に意識を向けます。いろいろな思いに囚われたら、呼吸に注意を戻すということの繰り返しです。それにより思いに囚われなくて、自分の心を客観視するための訓練であると言えます。

特にマインドフルネス瞑想法の静座瞑想は、取り入れやすい技法です。長時間継続することは難しくても、マインドフルネス瞑想法を稽古の前後、朝目覚めた瞬間、夜就寝前など様々な場面で取り入れていただき、「今、この瞬間を、ただ観る」とを体感してみてください。



## 昇格・昇段 / 表彰のご報告



坂本千賀子

### 私の剣道七段昇段審査受審記

この度八月二十六日福岡市照葉の総合体育館で剣道七段を受審致しました。

満八十歳になっていました。受審申込み時、当日の満年齢を書く欄に八十歳と書き、私もとうとう大台に乗ったのかと感慨ひとしおでした。

六段受審は、合格させていただきました。まで十年以上かかりました。

主人の闘病その後の死別、息子たちの結婚等々剣道から離れる期間もありましたが、それにしても時間がかかりすぎました。深く反省しています。

六段合格後、浮ついた気持ちを引締めて道場に行きました。

先生方を始め剣友の皆さんが夫々にオメデトウを言ってくださいました。



その中の一人の先生(私より二年位前に六段昇段された若い先生)が「坂本さん、後五年十一月月ですよ」と言われました。私は何のことを言われたのかわかりませんでした。

「七段審査迄ですよ。すぐさまですよ。」私は信じられませんでした。漸く六段に十年以上も掛かって昇段できたばかりでしたから?

でもすぐさましました。七十六歳になつていました。自分がまさか七段を受審する立場になるとは思いもせず何となく稽古を続けていました。先生方のお勧めの言葉で七段受審を決意しました。私より若い先輩の先生から、今迄の私の癖を指摘、足の踏み方、手の振り上げ方等正しく面が打てるように、指導していただきました。出来る迄何度も何年も打たせて下さいました。私のせいで先生の背が少し縮んだのではないかと心配です。

これからと思つた時、コロナで稽古ができなくなつたり、審査が延期になつたり、年を重ねるばかりで、望みはどんどん遠くになりました。そのような時に私が所属している早良区剣道連盟の角先生が「剣道に男女の別も年齢の差もありません」と私の迷いにこたえてくださいました。護国神社道場の牧瀬先生からは、「審査で合格できないことは、悪

いことではありません。諦めることが悪いことです」何度も背中を押していたできました。

両先生を始め多くの先生方から不器用な私を諦めずに指導していただきました。

八十歳の誕生日に四年目の挑戦で合格させていただきました。

剣道を諦めなくて良かったと同時に此処まで導いて下さった先生方に深く深く感謝申し上げます。

何時まで剣道の稽古が続けられるかわかりませんが、今後とも変わらずご指導お願い致します。



居合道部  
馬場 清治

### 居合道八段位昇段に際して

この度、令和五年五月三日京都にて行われました、全日本剣道連盟居合道八段審査会に於きまして、囃らずも居合道八段位昇段の栄を賜りました。

これも偏に師匠である範士八段井手友太先生のご指導はもとより諸先生、諸先輩をはじめ剣友皆様のご指導とご支援の賜物と衷心より

厚く御礼申し上げます。

審査会を振り返りますと、初めて受審した審査会は、コロナ禍で五月予定の審査会が延期され八月二十九日となり、まだ夏の厳しい暑さが残る中での審査でした。また、審査会場において抜刀による稽古は禁止されぶつつけ本番の審査となり、力みも取れないままでしたが、一次審査合格をいただきました。二次審査は不合格でした。翌年も二次審査まで進むことが出来ましたが合格は叶わず、三回目、四回目では一次審査も合格できず自身の力不足を痛感いたしました。居合道八段審査会は一年に一回行われていたのが、昨年より審査会が年二回行われ、三回目から四回目と今回の審査までが約半年の期間で行われたこともあり、気持ちも途切れることなく稽古できたことが昇段につながったのではないかと思います。

八段審査に向けた稽古としては、着替えて刀を振らずにストレッチをしたら、師より指導されていることをまず思い返して、審査のつもりで始礼から終礼まで六本を決めて計測、時間を空けて十二本を計測。これを毎回繰り返し行いました。

師匠からは固い、力を抜きなさい。上体で斬るな、腕で斬るな、足と

腰に力を入れ「肩の力を抜いて」「大きく」「丸く」「のびやかに」「ピリッ」とした居合をしなさいと何年も同じことを指導していただき、できない自分に根気強くご指導いただきました。申し訳なさと感謝の気持ちでいっぱいです。

今回八段位に昇段させていただきましたが、これからが本場の居合道八段としての修業の始まりと実感しております。

今後は一層の精進に努め微力ではありますが居合道普及発展のため尽力いたす所存でございます。諸先生、諸先輩剣友各位におかれましては変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。







松岡 誠

感謝

この度、愛知県で開催されました剣道八段審査会において合格することができました。合格に当たり、このような機会をいただきましたので、僭越ながら私の気持ちを述べさせていただきます。

私は遠賀郡芦屋町にあった毛利武道館で、小学二年生から剣道を始めました。初めて剣道を教えてくださった毛利茂男先生は、剣道の楽しさや厳しさ、技術はもろろんのこと、人としてどうあるべきかを稽古が終わった後、礼をする前に必ずお話ししてくださいました。今でも覚えており、私の人格形成に大きな影響を与えてくださったと感じています。

高校に進学する際、福岡工業大学附属高校(現福岡工業大学城東高校)の中野直先生からお誘いを受け、福岡工業大学附属高校剣道部に入部しました。高校では寮に入り、朝のトレーニング、夕方の部活動と厳しい毎日の繰り返しでし

た。稽古では、素振りや切り返し、打ち込みなどの基本や試合での心構えなどをご指導いただき、学校生活では、勉学の大切さを指導いただくなど、今の私の土台を築くことができた三年間でした。

大学は法政大学に進み、三宅一志先生から剣道に関する事や社会人としての在り方など、四年間ご指導いただきました。また、先輩や同級生、後輩などの多くは、高校時代の有名選手ばかりであり、そのような環境の中、お互いに切磋琢磨できたことは、人として剣道をする者として大きく成長できた実感しています。

社会人になってからも宮川英俊先生を始め、多くの先生方からご指導をいただくなど、節目において良き師に出会えたこと、ご指導いただいたことに心から感謝しています。また、一緒に稽古してくださった剣友の方々、城東高校剣道部の後輩、少年剣道の子どもたち、支えてくれた両親や家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、少しでも恩返しできるように精進してまいります。ありがとうございます。

# 第27回九州女子剣道愛好会錬成大会

日時 令和5年11月18日(土)  
12:00~16:00

場所 久留米アリーナ 板張り武道場  
〒830-0003 福岡県久留米市東櫛原町170-1  
TEL:0942-39-7371

対象者 女性剣道愛好者  
(大学生以上で段位、経験年数は問いません)

## 当日プログラム

12:00~12:30 受付  
12:30~12:50 開会式、総会  
13:00~15:30 準備運動・基本稽古・地稽古  
15:30~15:50 閉会式  
16:00 解散

お問合せ TEL:090-4986-6299 永沼 真紀

## 昇格

### 剣道「教士」(令和五年五月六日)

亀山 裕司  
後藤 幸弘  
佐藤 宏一  
安森 崇生  
宮崎 潤  
前原 貢樹  
川添 末男  
井手 俊一  
三宅 正信  
田島 正義  
長野 正徹  
小川内 泰生  
陶山 研  
横尾 孝光

### 剣道「錬士」(令和五年五月六日)

木村啓呂  
白水 清正  
岸川 忍  
藤本龍一郎  
松崎 健香  
松本 卓志  
松尻 卓  
渡部 晃史  
岩男 真吾  
稲永 亮  
徳田 克則  
長岡 政彦  
篠田 賢治  
森村 功  
平田 俊次  
横溝 憲治

### 杖道「錬士」(令和五年五月三日)

中村 嘉雄





### 五段以上合格者

### 昇段

剣道「八段」(令和五年八月十二日)

松岡 誠

剣道「七段」(令和五年二月四日)

伊藤 基修 貴戸 良幸  
湯口 博史 大野 実  
築地 浩一郎 伏谷 康記  
中野 敬三 竹井 直也  
坂本 顕之

剣道「七段」(令和五年四月三十日)

秦 勝彦 栗原 浩一  
橋本 知之 泉 美智子  
久保 博子 片山 拓

剣道「七段」(令和五年五月十三日)

手塚 潤司 結城 一臣

剣道「七段」(令和五年八月二十六日)

川中 義彦 谷口 浩司  
藤嶋 晋太郎 高野 雅直  
高原 和彦 熊谷 寿洋  
吉田 和博 古市 尚稔  
大崎 勝也 馬渡 勝宏  
小林 洋介 諸富 研一  
丸山 智史 大山 美智  
光益 貴歩 土岡 清二  
平山 幸二 武岡 崇  
末次 輝 大崎 清二  
熊本 英雄 城野 博彦  
宮本 和之 坂本千賀子

剣道六段(令和五年四月二十九日)

秋山 正秋 成瀬 亨  
鰺坂 勇人 打越 猛

剣道六段(令和五年五月十四日)

徳安 雅也 福田 治雄  
岡部 麻子

剣道六段(令和五年八月二十七日)

山近 健志郎 古野 真千子  
齊藤 由紀子 有吉 千穂  
小揚 俊充 山口 美奈  
窪 勝太 谷口 祐一  
小川 諒太 花田 茂輝  
野口 一生 中村 公治  
江田 一樹 井上 睦生  
伊野 敬幸 橋本 剛幸  
橋本 敬悟 衣川 敬悟  
藤田 康平 木村 康平  
長谷川 雄紀 樋口 雄紀  
加藤 小百合 妹川 隼  
下川 雅史 井口 健  
二牟禮 弘樹 井上 あけみ  
上野 大輔 篠原 啓祐  
松永 虎太郎 益田 英明  
蓮尾 恭平 坪田 秀昭  
相場 秀斗 羽野 浩一  
菊地 真樹 石田 俊一  
南田 真樹 橋村 周拓  
森田 展哉 宮崎 健一郎  
辻谷 正義 菅谷 智和  
菅谷 正貴 松本 泰宏  
田平 悠也 福山下 武  
奈良崎 健朗 正木 栄作  
井上 尚勉 篠田 修

剣道五段(令和五年八月十二日)

井上 尚勉 篠田 修  
田平 健朗 正木 栄作  
松本 悠也 福山下 武  
菅谷 正貴 松本 泰宏  
辻谷 正義 菅谷 智和  
森田 展哉 宮崎 健一郎  
南田 真樹 橋村 周拓  
菊地 真樹 石田 俊一  
相場 秀斗 羽野 浩一  
蓮尾 恭平 坪田 秀昭  
松永 虎太郎 益田 英明  
蓮尾 恭平 坪田 秀昭

### 編集後記

異常気象の影響で全国何処でも線状降水帯が発生し大きな被害が発生しておりますが、県内も南部を中心に被災された方が多くおられます、心からお見舞い申し上げます。

さて今年も残す所二か月余り、今年にはコロナが五類に移行し多くのスポーツや行事が盛んに実施されていきます。当連盟では課題であったホームページをスマホでも簡単に見やすくしました。玉竜旗では団体に目を向けた記事から個人に目を向け、五人抜きをした高校生の記事を書きました。初めての試みですが皆さんの感想をお寄せいただきたいと熱望します。

少子化と多様なスポーツ分野の広がりで剣道人口の減少が続いておりますが、減少から増加に向け努力しております。広報委員長もその一翼をと頑張っています。皆さんの多くのご意見を待っています。

(広報委員会…佐伯、金子、小田、鬼木、本多、石井)



杖道六段(令和五年八月十八日)

山本美由紀

杖道五段(令和五年三月十日)

田畑 隆 宮原 芳樹  
渡邊 弘美 古賀 重治  
小川内 泰生

居合道六段(令和五年三月五日)

小金丸一哉 水落 宗嗣

居合道五段(令和五年三月十九日)

牛尾 亮一 八尋建二郎

居合道五段(令和五年九月三日)

松田 武尊 上村 りか  
江藤 知徳

居合道「八段」(令和五年五月三日)

馬場 清治

居合道「七段」(令和五年七月二十日)

松嶋 幸一

居合道六段(令和五年三月五日)

小金丸一哉 水落 宗嗣

居合道五段(令和五年三月十九日)

牛尾 亮一 八尋建二郎

居合道五段(令和五年九月三日)

松田 武尊 上村 りか  
江藤 知徳

杖道六段(令和五年三月十日)

田畑 隆 宮原 芳樹  
渡邊 弘美 古賀 重治  
小川内 泰生

杖道六段(令和五年八月十八日)

山本美由紀

杖道五段(令和五年六月十一日)

金子 良太 ハトンライオネル  
ハトン真由美